ベニモンカラスシジミの1新亜種

白水　隆
福岡市中央区六本松4丁目 九大教養部生物学教室

難波通孝
岡山県岡山市北長瀬 434

A new subspecies of *Strymonidia iyonis* OTA et KUSUNOKI from Honshu, Japan

TAKASHI SHIRÔZU and MICHITAKA NANBA

1957年，四国愛媛県皿が嶺より記載された *Strymonidia iyonis* OTA et KUSUNOKI ベニモンカラスシジミは，その後の同好者の熱心な探索にもかかわらず皿が嶺以外からは発見されなかった．1969年6月15日，岡山県新見市草間で土屋悟史氏により，翌1970年6月28日に同場所で那須敏氏によりそれぞれ本種と思われる1♀が採集されたのに端を発し，著者の一人，難波通孝はこの問題のチョウの生息地の調査，卵の採集および飼育に努力し，その生活史の解明とともに，かなりの標本を集めることができたが，中国地方産のものは四国皿が嶺産のベニモンカラスシジミとはかなり明瞭な差異があり，一新亜種と認むべきものと思われるので，ここに新名を与えて記載することとした．

なお本新亜種の幼生期，生活史については難波通孝が共同研究者とともに，倉敷昆虫同好会報"すずむし，(109)：3-8，1 pl.，1972"に発表した．

Strymonidia iyonis kibiensis SHIRÔZU et NANBA, subsp. nov.

(Figs. 1〜2, ♂; 3〜4, ♀)

The present new subspecies differs from the nominate one (Figs. 5〜6, ♂; 7〜8, ♀) from Saragamine, Shikoku in the following points.

1. In both sexes, wing shape is less rounded, especially in outer margin of forewings.
2. The size of sex-mark on forewings in male is smaller than in the nominate subspecies. The length of long axis of sex-mark is 2.2mm in the new subspecies, against 2.6mm in the nominate one in average.
3. Tails of hindwings are usually longer, about 1.7 times as long as those of the nominate one in average compared in each sex.

Length of forewings: 13.6〜15.4mm (♂), 14.8〜17.4mm (♀).

Time of appearance: End of May to end of June.

Food-plants: *Rhamnus yoshinoi* MAKINO, *R. japonica* MAXIMOWICZ and *R. japonica* var. *decipiens* MAXIMOWICZ.

Distribution: Honshu (Okayama and Hiroshima Pref.)

Holotype ♂, Niimi City, Okayama Pref., 28. v. 1972, M. NANBA leg.

Paratypes, 20♂♂ 14♀♀ from various localities in Okayama Pref. (Kawakami-gun, Atetsu-gun, Shitsuki-gun and Takahashi City besides the type locality).

Holotype and 6 paratypes are preserved in the Biological Laboratory, College of General Education, Kyushu University, and the other paratypes are in Osaka Museum of Natural History, Osaka and

Kurashiki Konchu Kan, Kurashiki City.

以上の記載に示したように本新亜種の特徴（原名亜種にくらべて）は，♂♀ともに翅形の丸みが少なく，とくに前翅においてそれが目立つこと，♂前翅性標の大きさが小さいこと，♂♀ともに尾状突起が短いことである．本新亜種と原名亜種の♂前翅性標，後翅尾状突起の測定値を示すと第1～3表の通りである．

第1表 ♂性標の大きさ（絶対値）の比較（単位mm）

	長径の長さ	左の平均	短径の巾	左の平均
皿が嶺産	2.4～2.8	2.6	1.3～1.4	1.3
新亜種	1.8～2.5	2.2	1.0～1.4	1.2

第2表 前翅長に対する♂性標の大きさの割合

$$\left(\frac{\text{性標長径の長さ}}{\text{前翅長}} \times 100\right)$$

	変異巾	左の平均
皿が嶺産	16.7～17.9	17.4
新亜種	13.2～16.9	15.1

第3表 翅長および尾状突起の長さの比較（単位 mm）
後翅長は，尾状突起の先端までを測定した．

産地	性別	前翅長 mm	後翅長 mm	尾状突起の長さ mm	後翅長100に対する尾状突起の比
愛媛県 皿が嶺	♂	14.4～15.7 (平均) 14.9	12.7～13.5 (平均) 12.9	1.0～1.3 (平均) 1.2	7.9～9.6 (平均) 8.9
	♀	15.9～17.6 (平均) 16.8	13.9～15.2 (平均) 14.7	1.3～1.6 (平均) 1.4	8.6～10.6 (平均) 9.8
新見市	♂	13.6～15.4 (平均) 14.6	12.4～14.4 (平均) 13.5	1.4～2.3 (平均) 1.9	12.6～17.0 (平均) 14.0
	♀	16.0～17.4 (平均) 16.6	14.6～15.8 (平均) 15.3	1.7～2.2 (平均) 2.1	11.6～14.2 (平均) 13.3
川上郡 成羽町	♂	14.2～14.9 (平均) 14.4	12.8～13.8 (平均) 13.5	1.7～2.2 (平均) 1.8	12.5～15.9 (平均) 13.5
	♀	16.2～16.6 (平均) 16.4	14.9～15.9 (平均) 15.4	2.4～2.6 (平均) 2.5	15.8～17.4 (平均) 16.3
後月郡 芳井町	♂	14.2～14.9 (平均) 14.5	13.2～14.1 (平均) 13.9	1.9～2.3 (平均) 2.1	14.4～16.3 (平均) 15.5
	♀	14.8～16.7 (平均) 16.1	14.2～16.3 (平均) 15.7	2.4～3.0 (平均) 2.8	16.0～18.8 (平均) 17.6

上表に示す通り成虫の大きさは両者にその差はほとんど認められない．尾状突起の長さにおいて吉備高原産は変異に富むが皿が嶺産と比較した場合，その長さおよび後翅長に対するその長さの割合は常に長い．ただ愛媛産の個体がもう少し多ければより正確な結果が得られたであろう．（比較個体数愛媛産3♂♂3♀♀，吉備高原産30♂♂25♀♀）

備　考

1. 前翅表面中室外方の橙色斑のあらわれかたは，愛媛・岡山県産ともに変異が多く，両亜種の区別点としてとりあげることはできぬと思われるが，♀に関する限り岡山県産のものが一般によく発達する傾向があるように感ぜられた．

2. 後翅裏面肛角部橙色斑（第1～2室）の内側を縁どる黒色鱗条は，新亜種においては原名亜種にくらべてその出現が弱く感ぜられるが，その差はデリケートであるのであえて区別点としてあげなかった．

3. 亜種名 *kibiensis* はその生息地“吉備高原”に因んで名付けたもので“吉備産の”意である．

4. 現在までに確認した本新亜種の産地は，岡山県下の新見市（草間，中井倉，長屋），川上郡（備中町(ビッチュウ)，成羽町，川上町），高梁市(タカハシ)上野，阿哲郡哲多町，後月郡(シツキ)芳井町および広島県比婆郡東城町である．
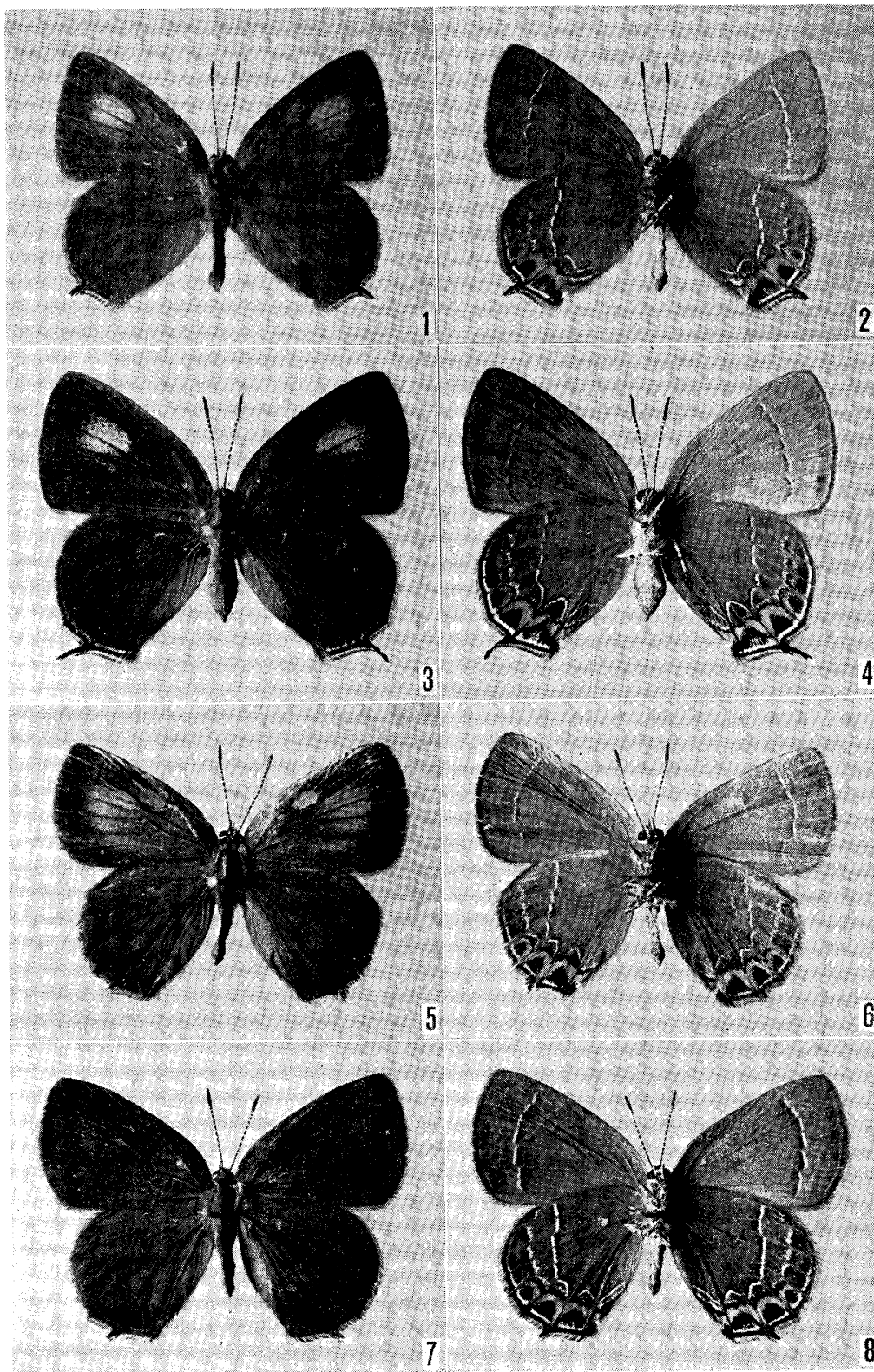
Fig. 1. *Strymonidia iyonis kibiensis* SHIRÔZU et NANBA, subsp. n. ♂, upperside (holotype). Fig. 2. Same as above, ♂,underside (holotype). Fig. 3. Same as above, ♀, upperside. Fig. 4. Same as above, ♀, underside. Fig. 5. *Strymonidia iyonis iyonis* OTA et KUSUNOKI, ♂, upperside (Saragamine). Fig. 6. Same as above, ♂, underside (Saragamine). Fig. 7. Same as above, ♀, upperside (Saragamine). Fig. 8. Same as above, ♀, underside (Saragamine).